



令和 8 年 4 月 17 日

## 岡山大学の植物標本庫 110 年前からのコレクション

- ・ 岡山大学資源植物科学研究所にはユニークなコレクションを持つ植物標本庫があります。
- ・ 5 月 9 日開催の研究所一般公開で植物標本の一部を展示します。
- ・ 10 月 24 日の倉敷市大学連携講座で標本庫についてスライドで紹介します。

岡山大学資源植物科学研究所には、研究所創立当時のスタッフや彼らと交流を持った研究者らによって採集された、様々な植物の標本約 10 万点が保管された標本庫があります。

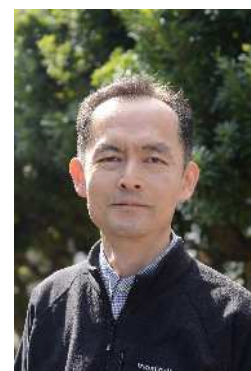
当標本庫の標本コレクションの特色として、当研究所の職員（研究者）による標本は、他の標本庫には殆ど保管されていないというユニークさが挙げられます。例えば初代所長で種子研究の第一人者である近藤萬太郎博士の種子標本、日本の雑草学の第一人者である笠原安夫博士の雑草標本、近年では私こと山下による岡山県産絶滅危惧種の標本などです。

現在、標本庫における公開展示はしていませんが、保管されている標本は一部を除き、誰でも学術研究に利用できます。また、榎本敬 博士が収集した約 1 万点の野生植物冷凍種子コレクションも研究利用が可能です。2026 年 5 月 9 日に開催予定の岡山大学資源植物科学研究所一般公開では、標本のごく一部を展示して紹介します。また、10 月 24 日開催予定の倉敷市大学連携講座では、標本庫の特色や存続のための課題についてスライドで紹介します。



近藤博士の種子標本コレクション

標本庫は先人たちが残し、研究の可能性が詰まったかけがえのない財産です。未来永劫受け継がれることを願ってやみません。



山下 助教



## PRESS RELEASE

### ■発表内容

#### <現状>

生き物の標本（植物の押し葉標本など）を研究のために保存している場所を標本庫といいます。標本庫には様々な意義があり、分類学的研究・地理分布・個体変異の証拠資料としての価値のほか、遺伝資源として、また X 線解析など非破壊分析による研究材料としても活用できる貴重な研究資源であり、研究の歴史を物語る資料でもあります。じつは岡山大学にも、一般にはあまり知られていませんが、野生植物の標本庫があります。

#### <研究成果の内容>

岡山大学資源植物科学研究所は、1914 年に実業家の大原孫三郎によって創立された大原奨農会農業研究所を前身としています。ここには、研究所創立当時のスタッフや彼らと交流を持った研究者らによって採集された、様々な植物の標本約 10 万点が保管された標本庫があります。

当標本庫のコレクションの特色として、当研究所の職員による標本は、他の標本庫には殆ど保管されていない点が挙げられます。特に、初代所長であり種子研究の第一人者である近藤萬太郎（こんどうまんたろう）博士の種子標本コレクション、日本の雑草学の第一人者である笠原安夫（かさらはやすお）博士の雑草標本コレクション、近年では山下による岡山県産絶滅危惧種のコレクションなどがあります。また、寄贈された標本として、岡山県の野生植物を長年研究した難波早苗（なんばさなえ）による標本、日本最後のプラントハンターといわれる古瀬義（ふるせみよし）の標本などが保管されています。

#### <社会的な意義>

現在、標本庫における公開展示はしていませんが、保管されている標本は一部を除き、学術研究のために誰でも利用でき、貸し出しも可能です。また、榎本敬 博士が収集した野生植物冷凍種子コレクションも研究のために利用可能です。共同研究を歓迎しますので、山下までお問い合わせ下さい。2026 年 5 月 9 日に開催予定の岡山大学資源植物科学研究所一般公開では、標本のごく一部を展示して紹介します。また、10 月 24 日開催予定の倉敷市大学連携講座では、パワーポイントのスライドを用いて、標本庫の特色や存続のための課題について紹介します。

### ■研究資金

本研究（標本庫の整理）は、大原奨農会の支援を受けて実施しました。



岡山大学は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。



#### <お問い合わせ>

岡山大学学術研究院先鋭研究領域  
（資源植物科学研究所）

助教 山下 純

（電話番号）086-434-1240

（FAX）086-434-1240